



## vol.6 岡安明香さん

---

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方にお仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第6回目に登場いただくのは、[富士通イノベーションサーキットセンター](#)で、新規事業送出プログラムに携わっている岡安明香さんです。聞き手はJOI情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

---



富士通イノベーションサーキットセンターで働く岡安明香さん

### 新しいオフィスは、“共創”がテーマ

山口 本日は「Fujitsu Uvance Kawasaki Tower」にお伺いしています。この川崎タワー、すごく綺麗なオフィスですね。最近できあがったとお聞きしました。



岡安さん 2021年7月に開設しました。

山口 お酒が飲めるスペースもあったりして、コミュニケーションが簡単に取れそうな雰囲気になっていますね。

岡安さん そうですね。社外の方も含めて、何かと一緒に“共創する”ということを目的としたオフィスになります。

山口 富士通という会社は、読者のみなさんもお存知だと思いますが、改めて、どういった会社か教えていただけますか。

岡安さん これだ、と答えるのが難しいのですが、「何でも屋さん」のような会社です。例えば、みなさんの生活に身近なところだと、図書館やレジのシステム、大企業のバックアップのためのシステムをつくったりしています。

## 働き方を向上させるためのツールを企画・開発

山口 岡安さんは、イノベーションサーキットセンターというところに所属していらっしゃると思いますが、こういった部署なんですか？

岡安さん 今年の1月から、「新規事業創出プログラム」というものがスタートしました。私が所属しているところは、そのなかの「チャレンジメンバー」というところです。メンバー2人が、つくりたい事業の価値創出をする機関となっています。まずは最初の半年間で、「このサービスは、これだけの価値を産む」ということを証明し、半年後の審査会で、会社として「投資をすべき事業かどうか」を判断してもらいます。

以前に所属していた部署は、社内IT部門でした。「Zinrai for 365 Dashboard」（ジンライフォー サンロクゴ ダッシュボード）という、業務の可視化をするツールの、社内実践を推進する係をしていました。これは、マイクロソフト協業の製品なのですが、社員がパソコン上でどのような動きをしているか、取得できるツールをインストールしておいてもらい、あとからダッシュボードを見ると、どの方がどんな働き方をしているのか、可視化できるというツールです。

山口 そのほか、川崎タワーのなかで使われているシステムも担当なさったとお伺いしましたが。

岡安さん はい。現在進行形で、社員同士のコミュニケーションを促進するアプリケーションの社内実践をしています。川崎タワーは、全部で29フロアありますが、そのうち26フロアくらいが執務室になっていて、Wi-Fiポイントから、その人が今どこにいるか、位置情報が取得できます。私たちはプロフィールの情報をもとに、「この人とこの人は話しが合うんじゃないか、探してみよう」と、位置情報を提供し、実際にユーザー同士で会ってもらうための、手助けをするアプリを提供しています。今までに1700人くらいが使ってくれています。

## ものづくりが好きだから、プログラミングの道へ

山口 富士通さんなので、情報系も強い会社だと思うのですが、最初から情報やシステム

系のお仕事がしたいと思って、大学に進まれたんですか？

**岡安さん** いいえ。大学に進むときは、この仕事がしたいとは思っていませんでした。就職するタイミングで、ものづくりをする仕事が好きなんだと、改めて気づいたのをきっかけに、富士通に就職したいと思うようになりました。

**山口** ものづくりのひとつの手段がプログラミングですが、そのプログラミングを始めたきっかけは？

**岡安さん** 大学の授業で必修科目だったので、「こんな科目もあるんだ」と思って専攻したのですが、それが意外と楽しかったんです。3年生、4年生のときには必修ではなかったのですが、好きだったので続けました。

**山口** 大学は青山学院大学だそうですが、どんなことを専門に研究されましたか？

**岡安さん** 経営システム工学科のインダストリアル・エンジニアリングの研究室に3年生から所属していました。研究室のメインのテーマとしては、生産性を改善するということでした。

**卒業研究では、趣味のビーズステッチを題材に**

**山口** いただいた写真では、そういった研究に見えないのですが……。こちらは？



岡安さん こちらは卒業研究です。趣味でやっている「ビーズステッチ」というものを題材にしたのですが、初心者がつくるのは難しく、優しい教材や本もあまりありません。また、本があったとしても、そこで紹介されているものしか制作できないので、自分がこういうものをつくりたいというときに、図面がないんです。図面から自分でできたらいいなと思い、アプリを開発しました。

山口 学会でも発表したと。

岡安さん 京都で行われた学会で発表しました。初めての場だったので、緊張しました。また、ビーズという題材を、聞いておられる大学の方々に理解してもらえるのか、というところがそもそもの課題でした。ビーズをやられていない方に対し、どれだけ難しいことか、きちんと伝えられるのか。そしてなぜこのアプリが初心者にとってタメになるのか、うまく表現するのが難しかったです。

ただ、意外だったのが、就職活動時の面接で、ビーズステッチの研究をしましてとお見せしたときに、面接官の方が実際にお子さんとビーズをやられていて、「難しいよね」と共感してくださったのが、すごく驚きでしたし、うれしかったです。

## 中学生くらいから、理系科目が得意になった

山口 理系の大学を選んだきっかけはなんですか？

岡安さん 経営システム工学科に行きたくて、青山学院大学を選びました。もともと、会社の経営とか、会計学、経済学などを学びたかったのですが、高校のときに国語が苦手なで、理系になってしまいました。理系にいたとしても、文系的なものが少し学べるというのが経営システム工学科だったので、そこを選びました。

山口 小中高から理系でしたか？

岡安さん 小学生のときは、社会科の歴史が好きでした。反対に、科学と算数はすごく苦手だったのですが、中学校になって、国語に苦手意識が出てしまって……。その頃から、数学が楽しくなってきて、高校になると、化学がすごく楽しくなって……。と、中学3年生くらいから、自分は理系に進むんだろうなと思っていました。

山口 岡安さんの年代だと、プログラミングはジェネラルなキーワードになっていた頃だと思うのですが、興味はありましたか？

岡安さん いえ。高校生のときもプログラミングには触れてこなくて、大学に入ってから初めて触りました。

## 会社の若手として、働き方をアップデートしていきたい

山口 小中高時代の夢はなんでしたか？

岡安さん 小学生の頃は、NHKホールでアナウンサーの体験をしたことがあったので、アナウンサーになりたと思っていました。でも、中学生で自分は理系だと思ったときに、何

になりたいか再度考えるようになりました。祖母がリウマチで、冬場など辛そうにしているのを見ていたのですが、今は完治させる薬がないというのを聞いて、薬の開発をやりたいと思うようになりました。将来的になにがやりたいのか考えたときに、人のために役に立つことをしたいなと思っていました。大学のときは、これという職業はなかったのですが、自分の生活に最終的に返ってきて、何かタメになることに携わりたいと思っていました。

山口 今、そういった仕事をしているようにお見受けするんですが、実際エンジニアになってみて、いかがですか？

岡安さん まだ、自分の生活に直接的に反映されていると、実感したことはそんなにありません。でも、ヘルスケアの部署にいる同期が、電子カルテをやってるんだという話を聞くと、病院行ったときには、「これか！」と思うことがあります。富士通の製品は、自分たちの生活に何かしら関わりがあるんだな、というのは実感できています。

山口 今後はこういったところを目指していきたいですか？

岡安さん 富士通は、「Work Life Shift」（ワークライフシフト）など、働き方シフトに力を入れています。若手が時代の流れをピックアップして、上層部に対して、「こうすると私たちは働きやすいですよ」というアピールをすると、会社の経営層の人たちに「好きにやってみなよ」と、後押しをしてもらえています。その期待に応えられるように、社員としての個人もそうですし、会社も一緒になって、人々のために繋がるようなことをしていけたらいいなと思っています。

山口 エンジニアリング環境のお写真もありますが、面白いですね。



岡安さん これは自宅の写真ですが、iPadと、メインのパソコンと、サブモニターを使っています。会社のサポートがしっかりしているので、モニターは会社の福利厚生のお金で買いました。

### バレエにビーズ、最近は「読書」が趣味

山口 小中高から続けていることもあるそうですね。

岡安さん 2つあります。1つ目はクラシックバレエを5歳から大学生くらいまでやってきました。小中高はしっかりやっていたので、毎年発表会やコンクールに出ていました。大学受験を機にちょっと休みを入れて、大学生になってからは、週に2回程度、健康のためにいくような感じで続けていました。もう1つは、卒業研究にも使ったビーズです。手の不自由な祖母に対して、簡単に付けられるようなネックレスをプレゼントしたりしています。



(左) ビーズステッチで製作 (右) 祖母につくったネックレス

山口 最近始めた趣味もあるようですが。

岡安さん 本をよく読んでいます。Kindle (キンドル) も契約しました。新規事業創出の部署に移動したときに、課題図書が出たのがきっかけで、いろんな方が出されている本を

読むのって、楽しいんだなと思いました。また、ディズニーが好きなので、ディズニーのこれまでを振り返る歴史の本を読んで、次にピクサー、Netflixの本を読んで…と、いろいろ楽しんでいます。

山口 最後に、未来のプログラマーへのメッセージをお願いします。



岡安さん プログラミングをするなかで、難しい壁にぶち当たって、嫌になることもあるかもしれません。でも、将来、考え方などで役に立つことが必ず出てくると思うので、地道に続けていていただければなと思います。

山口 本日はありがとうございました。

#### 【インタビューを終えて】

人生の節目ごとにできることを追求してきた岡安さん。今の仕事もものすごく楽しんでいらっしゃるの伝わります。きっといろいろと苦労も多かったんだろうと思いますが、今の岡安さんはそんなことは感じさせないように、明るく素敵に話してくださるのが印象的

でした。

みなさんも今やっていることがうまくいかないとき、ちょっとだけ横を向くと、楽しいことが広がるかも知れないので、是非、前にすすんでください。（山口）

次回もお楽しみに。